

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：32693

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K11966

研究課題名（和文）特別な教育的支援を必要とする新人看護師の様相と教育指導方法の開発

研究課題名（英文）Development of Aspects of New Nurses Requiring Special Educational Support and Educational Guidance Methods

研究代表者

西田 朋子（NISHIDA, TOMOKO）

日本赤十字看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：20386791

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：国内文献の検討を行った結果、会議録がほとんどであり十分な研究論文は見当たらないことがわかった。英文献では、ケーススタディのように個別の状況を明らかにしているものが多く、全体としてどのような傾向にあるのかを示したものはほとんど見当たらなかった。聞き取り調査では、少なからず他の新人看護師よりも進捗の緩やかな者の存在が明らかとなっている。このような特徴を持つ新人看護師は、特徴として「看護技術の修得がゆっくりである」「自己評価が高い」「何度指導しても覚えられない」等があり、指導する側が疲弊したり、夜勤や一人立ちの時期を遅らすことをする必要が生じている状況が語られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国内外における特別な支援を要する新人看護師に関する研究的取り組みに関する状況の把握ができたことが1点目である。2点目は、これまで個別の経験からの情報のみであった、指導に困難があり、何らかの特別な支援が必要な新人看護師が、現場でどのような状況にあるのか、聞き取り調査から見てきたことがある。特に、初等中等教育においては特別な教育支援を要する児童や生徒への配慮や指導に関する報告は見られているが、専門職育成を行う看護学教育において、また就職後の新人看護師指導においてどのようなことを考慮していく必要があるか、また研究的な取り組みを進めていく必要があるその一端が明らかになったことに意義がある。

研究成果の概要（英文）：As a result of reviewing the domestic literature, it revealed that most of the literatures were of conference reports and there were no sufficient research papers. In the English literature, there were many cases that clarified individual situations such as case studies, but there were few that reported what the trend was as a whole. Interviews have revealed that some new nurses are making slower progress than other new nurses. New nurses with these characters are characterized by "slow acquisition of nursing skills", "high self-evaluation" and "inability to learn no matter how many times they are instructed" and the instructor commented that they were exhausted and were required to delay the start of the night shift or stand alone.

研究分野：看護教育学

キーワード：新人看護師 支援 教育

1．研究開始当初の背景

日本では2010年4月から新人看護職員研修制度が努力義務化され、多くの医療施設では新人看護職員研修ガイドラインに沿って新人看護師に対する教育プログラムを実施し、新人看護師が確実に看護実践能力を身につけられるような制度を整えられてきた。ところが近年、新人看護師の中には特別な教育的支援を必要とする者が増加し、看護の質の維持や人材育成の観点から課題となっている。しかし彼らの看護実践能力育成にむけた教育指導方法は開発されていない。安全かつ質の高い看護の提供、さらにはマンパワー施策の観点からも、こうした新人看護師の看護実践能力を何らかの教育指導により培っていくことは看護界において喫緊の課題であるため、本研究に着手する。

2．研究の目的

本研究目的は、特別な教育的支援を必要とする新人看護師の看護実践の様相を看護管理者、指導者、当事者視点から明らかにし、医療現場で有用性のある教育指導方法を開発することである。

3．研究の方法

国内外の文献レビューおよび新人看護師の看護実践の様相を面接調査から明らかにする。

4．研究の成果

(1) 国内文献の検討を行った結果、会議録がほとんどであった。また特別支援で検索を進めると特別支援学級の生徒や学生に対する関わりが検索され、新人看護師の実態を明らかにした文献ではなかった。医中誌 WebVer.5 で全年検索を行った結果、「特別な支援」and「新人看護職」では0件、「特別な支援」and「新人教育」では1件、「新人看護師」and「困難事例」では3件だった。そのうち、論文種類としては会議録がほとんどであった。その他、「特別支援」で検索もしたところ研究内容としては、特別支援学級の生徒や学生に対する関わりや看護職への暴力等に関する研究であり、新人看護師の実態について明らかにされた文献ではなかった。また、本研究において“特別な教育的支援”を必要とする新人看護師は、発達障害や学習障害といった診断を必ずしも受けているわけではないことから、それらのキーワードを当初は選定しないこととしていたが、幅広く検索するために、「発達障害」「アスペルガー」等のキーワードを用いた検索も行ったが、そのような看護職を対象とした研究論文はみあたらなかった。

一方、小学生や中学生など、初等および中等教育での探究は徐々に進んでいる現状にあることから、医療看護系の実態も把握する必要性があると判断された。

英文献に関しては、「developmental disorders」「struggling learner」「learning disability」をキーワードとして nursing に関する文献を選択したところ3件だった。また、CHINAHLで同様の検索を行ったところ9件であり、各文献の引用文献等を確認したところ13件が該

当した。対象は、看護学生が 23 件、看護師が 12 件、その他が 15 件であった。調査方法としては、ケーススタディのように個別の状況を明らかにしているものが多く、全体としてどのような傾向にあるのかを示したものはほとんど見当たらなかった。

面接調査実施に向けた聴き取り調査では、少なからず他の新人看護師よりも進捗の緩やかな者の存在が明らかとなっている。このような特徴を持つ新人看護師は、特徴として「看護技術の修得がゆっくりである」「自己評価が高い」「何度指導しても覚えられない」等があり、指導する側が疲弊したり、夜勤や一人立ちの時期を遅らすことをする必要が生じている状況が語られた。

(2) 本研究は研究期間内にすべての研究目的を達成することができなかった。

理由としては、研究代表者自身の出産育児により、研究時間の確保ができなかったこと、またコロナ禍において教育活動の実施形態の変更を余儀無くされたため、その対応に時間を充てる必要があり研究を実施するに至らなかった。また臨床状況もコロナが落ち着かず研究を実施する受け入れが十分可能な状況になかったためである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------